

グローバルな活躍のすすめ

都立国際高校 キャリアガイダンス

2014年6月7日

柏木 茂雄

慶應義塾大学 大学院 商学研究科 教授

自分史 (1) — 学生時代

- 学生時代は一貫して私立校(慶應義塾)
- 楽しく、居心地良かったが、狭い社会

- 大学在学中、米国へ短期交換留学を経験
- 違った世界、広い世界を経験

- 「公」のために働きたい
- 将来、後悔しないため、今、全力を尽くす

- 公務員試験合格後、大蔵省(当時)入省

自分史（2） — 財務省時代

- **大蔵省(現 財務省)で幅広い仕事を経験**
- **財政、金融、国際金融**

- **一企業、一個人のためでなく、**
- **広く、国のために働く楽しさ、喜び**

- **米国の大学院に2年間留学**

- **加えて、合計12年間に国際機関で過ごす**
- **国際通貨基金(IMF)に延べ3回10年間、**
- **アジア開発銀行に2年間。**


自分史（3） — 国際機関職員



• グローバルな見方、仕事を経験



• 世界の「公」のために働く



• 世界中から集まってくる優秀で素晴らしい人たち

自分史（４）－ 大学教授

・ 自分でも予想もしなかった展開

自分の実践的な経験を伝える

理論だけでなく、現実世界を

・ 「リスクと機会」のバランス

グローバルな時代とは何か？

国境を超えた動きが活発化

- **もの、サービス、人、カネ、情報**

他方、国境を越えられないもの

- **規制、行政、国家主権**

経済のグローバル化が進めば、

国境を超えた競争 / 協調

国境を超えた利害調整
/ ルール作り

グローバルな観点から
「公」を考える必要あり

国際機関の重要性が高まる



**例えば、国際通貨基金(IMF)：加盟国数 188カ国、
スタッフ：160カ国から 約2600名
(出典) IMFウェブサイト**

グローバルな職場では、

国家

言語

人種

多様な人と
付き合う

文化

信条

宗教

国旗・国歌 をどこまで意識するか？



オリンピック

国旗、国歌を意識しない働き方



サッカー 本田選手

「グローバル社会」 = 「海外」 か？



• 日本国内でも「グローバル」な活躍は可能かつ必要



• 外国人の上司、同僚、部下、取引先と如何にうまく仕事ができるかが課題



• 「内なるグローバル化」が必要となる

グローバル社会では何か必要か？

お互いの違いを認識し、



違いを尊重し合い、



多様性を楽しむことにより、



本当の自分を理解できる

「自分を知る」ってどういうこと？



• 「違い」を嫌がらず、



• 異なる意見と向き合ってみる。




• 例えば、多様な友人を作る、本を読む、海外に行って冒険を試してみる。



• 多様性を通して、自分をより良く知ってみよう


「自分」を伝える



• 自分を知り、自分の考えをまとめ、それを伝える訓練を試みる



• 伝えるべきものがないのに、語学力だけを磨くのは意味がない



• 自分の考え、経験を他者、第三者に分かやすく伝える

Challenge !!

You Can Do It !!

Good Luck !!